

令和2年度第1学期終業式式辞（放送）

おはようございます。穎明館生の皆さん、校長の橋本です。令和2年度第1学期終業の日を迎えました。放送ではありますが、穎明館の生徒全員に対してメッセージを送れることを嬉しく思います。

令和2年度第1学期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により例年とはまったく違ったものになりました。4月、5月の緊急事態宣言下でのオンライン学習、6月の学年別登校から分散登校、そして7月の平常登校。安全対策を最大限にとりながら、授業はもちろん、クラブ活動も再開しました。皆さんには折に触れ、こう伝えてきました。「自分が感染者にならない、感染を広めない、ということを徹底し、十分に気をつけていきましょう。医療従事者をはじめ、今という時代、社会を支えている人たちへの敬意と感謝の念をもちながら、穎明館生全員の努力と協力をお願いします」と。私が見ている限り、皆さんは今のところ、十分にその期待に応えてくれていると思います。まだまだ心配な時期が続きます。これからも引き続き健康・安全第一でよろしくをお願いします。

さて、皆さんへの第1学期終業のメッセージとしては、このコロナの時代に話題になった一冊の書籍、『「これから」の時代を生きる君たちへ』について伝えたいと思います。この『「これから」の時代を生きる君たちへ』は、イタリアの高校のドメニコ・スキラーチェという校長先生からの生徒へのメッセージです。休校中のイタリアの生徒に対してだけでなく、追伸として、日本の生徒たちにも心温まるメッセージを送ってくれました。その追伸から抜粋して紹介します。

「隔離された孤独な時間も、いつかは終わります。それは確かです。この時間を自分自身について、人生について考える大切な機会にできるのです。今回の非常事態は、21世紀に生きる私たちが抱いていた確信のいくつかを揺るがしました。自分たちを“無敵の勝者”だと思っていたのに、実は脆いことに気づかせてくれました。現代社会のすさまじいリズムに巻き込まれ、流されて生活していたのに、立ち止まらざるをえない状況になりました。

この動けない状態は、私たちのライフスタイルを考え直すよい機会になるかもしれません。命や愛、友情や自然など、本当に大切なものは何か、理解する機

会になるかもしれません。

この危機を乗り越えたとき、皆さんはきっと変わっていることでしょう。よい方向に変わることができるかもしれません。もっと自覚をもった、もっと素晴らしい人間になることができるかもしれません。本を読み、考えることで、この孤独な長い日々を無駄に失われた時間にせず、有益で素晴らしい時間にしましょう。

イタリアの生徒たちにとっても、日本の生徒たちにとっても、そうあってほしいと思います。

皆さんの幸運を、心よりお祈りいたします。」

穎明館生の皆さん、皆さんは約 3 か月続いた休校期間を今、どのように振り返るでしょうか。思い出したくない期間、もう過去のこと、あるいは自由にやりたいことができた至福の時……それぞれだとは思いますが。もちろん、休校期間を含め、コロナの時代を総括するにはまだ早いかもしれません。しかし、コロナによって日本、そして全世界の人々が突然見舞われることになった、この危機と不安の時代とは自分にとってはどういうものなのか、今一度考えてみてほしい。それはまさしく、皆さんが自分自身のこれからの人生を考え、方向づけることにもつながるにちがいないからです。生徒の皆さんだけでなく、私たち教職員も、学校も、その意義やあり方を問い直すことを突きつけられているように思います。学校に通う、通わせる意味、教育活動の中身、今後の教育の在り方、そもそも学校とは、教育とは、……今まで日常として当たり前を受け入れてきた一つ一つに問いを立て、答えを探していく。その際、私は、私たちは、希望を忘れてはならない。希望をもって、これからの時代、社会づくりに貢献していこうではありませんか。

最後に、短い夏休みですが、リフレッシュしつつ、1 学期末試験で失敗した人は、よく復習し、2 学期に向けて挽回を期してください。受験生、6 年生の皆さんは、決して焦ることなく、テーマを絞って夏を活かすことを望みます。そして穎明館生皆で、第 2 学期の始業式の日にもまた元気に会いましょう。

以上、令和 2 年度第 1 学期終業式の式辞といたします。